

合併症リスクと機序

② 乾癬の併存疾患

杏林大学医学部腎臓・リウマチ膠原病内科

小林 知志, 岸本 暢将

KEY WORDS

- 乾癬
- 乾癬マーチ
- メタボリックシンドローム

はじめに

乾癬は、特徴的な銀白色の鱗屑を伴い、肘や膝の伸側および頭皮などの機械的刺激のある部位に好発する慢性の炎症性角化症で、皮膚以外のさまざまな部位にも併発症状や合併症を呈し、海外では“psoriasis”と皮膚病変のみを示す病名が用いられていたが、近年、全身疾患としての乾癬“psoriatic disease”といわれるようになってきた。関節炎は乾癬患者の約10～30%に認められる主要な症状の1つであるが¹⁾、関節炎のみならず、肥満、炎症性腸疾患、ぶどう膜炎などの合併を認めることがあり、包括的な対応が求められる疾患である(図)²⁾。

I. 肥満、メタボリックシンドローム

乾癬患者では肥満が多いことが報告されており、乾癬を有している人とそ

うでない人を比較した論文ではオッズ比1.66(95%信頼区間1.46-1.89)と報告している³⁾。海外だけでなく、わが国でも乾癬患者では肥満が多いことが示されている⁴⁾⁵⁾。また、肥満自体が乾癬の発症リスクを上げ⁶⁾、疾患活動性も上げるという報告があり³⁾、体重を減量することで皮疹や関節炎が軽快し、治療への反応性がよくなるといった報告もある⁷⁾⁸⁾。したがって、乾癬、乾癬性関節炎の治療において、肥満患者の減量指導は重要であると考えられる。

さらに、肥満では脂肪細胞の慢性炎症がインスリン抵抗性を本態とするメタボリックシンドロームを引き起こし、ひいては心血管イベントにつながるものが大きな問題となる。メタボリックシンドロームは国によって診断基準が異なるが、おおよそ共通している項目は、内臓脂肪の蓄積を反映するウエスト径の増大、脂質代謝異常、高血圧ならびに耐糖能異常である。このメタボリックシンドロームの罹患率

Comorbidities in psoriasis.

Satoshi Kobayashi

Mitsumasa Kishimoto(准教授)